住宅街の中に鎮座する「猫伏石」

上／「看板猫たちに会いに来て下さい」と店主の村田憲昭さん
右／「フラワーガーデンあすなろ社」の店先の花々

に7匹の猫を飼っています。どの子も保護猫ですが、かわいくてね」と話すのは店主の村田憲昭さん（51）。しかし熊本地震の時、揺れに驚いた猫たちが、いっせいに家を飛び出してしまったそうです。それからというもの、ビラを配って探し回る日々。中には、保護してくださった人もいらしたとか。そのかいあって、数ヶ月後には全員が帰還したそうです。よかった、よかった。

「猫たちに会いたいと来店されるお客さまも多く、しばらく遊んでいかれます」と村田さんが話してくれました。

住宅街にぽつんと不思議な巨岩

猫つながりといえば、住宅街の中に突然現れる「猫伏石」。三差路の真ん中にある不思議な巨岩には、伝説が残されています。

熊本城築城の際、加藤清正が横手五郎という怪力の人夫に、城の土台となる石を探してくるよう命じました。木山川上流の河原（西原村）で石を見つけた五郎は、ワラ縄で編んだ敷物の「猫伏」に包んで帰るも、巨岩の重さに耐えられなくなった猫伏が破れてしまいました。五郎は小さな石だけを抱え、あとは残して去った、という物語です。

その真実はともかく、時代と共に辺りの景色が変化しても、はるか昔からこうしてこの場所に鎮座する姿に、そこはかとない神秘を感じます。

地域のオアシス府内古閑の権現社

散歩の暑さをしのげる場所が「権現社」の境内です。高くそびえる2本のご神木のクスノキが、空を覆い隠すように大きな枝を広げています。風が立って汗ばんだ体をすり抜けると、心地良い自然のエアコンに包まれます。

「当神社は『熊野宮』として長く地元で呼ばれてきましたが、郷土史によれば『府内古閑の権現社』として祭られていたとあり、4年前の鳥居再建の際に、本来の名称に戻しました」と話すのは5町内区長の山口仁義さん（74）です。

樹齢約600年と伝わるご神木のクスノキ

また山口さんは、「昔、この辺りは府内古閑と呼ばれており、おそらく国府や隈府といった政府の管轄下にあったのではないでしょうか」と想像を膨らませます。手入れが行き届いた境内は、毎月1日と15日に氏子によって掃除が行われます。「昔から子どもたちの遊び場でもあり、地域の人たちのオアシスになっています」と宮総代の西田明敏さん（72）が教えてくれました。

山口仁義さん（左）と、西田明敏さん

木立が涼しさを呼ぶ「権現社」の境内